

## 1年あゆみ

### 技術部分析課

課長 黒田俊夫

59年度は、忙しいながらも、あつという間に過ぎた一年でした。まず、人の面では、約30名と当協会で、最も人員の多い課であるため、人の出入も多く、合計9名の異動がありました。次に、業務面では、水質分析等が主体であることに変わりはないが、少しづつ業務内容が多岐にわたり変化してきている傾向があります。例えば、地下水等の解析、建設騒音・振動、微量分析、工場工程内分析等であり、作業環境測定、簡易専用水道施設検査等も若干ながら増えてきました。なお、年度始めには、環境庁から温泉分析機関としての指定を受け、また11月には、新館建設に伴い、今まで手狭であった控室、サンプル庫の拡充ができ、職場環境も良くなりました。

### 技術部環境技術課

課長代理 権藤琢磨

59年度の業務件数は21で、分野別にみると、計画設計が7、運転管理指導が2、開発研究が1、その他診断・解析等が11となっており、特徴や傾向を読み取ると次のとおりである。

- 1) 地下水や池水の水質保全に関する内容が目立ち、最近の環境問題を反映している。
  - 2) 環境行政推進のための条例や要綱の技術指針作りを目的とした、雑用水道技術指針検討(福岡市)や地下水環境調査(岡垣町)がある。
  - 3) 処理装置の開発を目的とした、共同研究(産公防)や技術指導(西部ダイワ)がある。
- 以上、高度の技術を要する業務が目立った。

### 環境部環境アセス課

課長 隈本正顯

59年度の業務は、分野別にみると次のとおりである。

- 環境アセスメント：七目漁港埋立、高島町し尿処理建設、博多港潮流・水質予測モデル作成、環境影響評価手法策定調査
  - 解析業務：響川の河川水拡散予測、北九州港及び博多港の水質データ解析、加津佐漁港漂砂調査、樋井川河口汚濁拡散予測
  - モニタリング業務：博多港西部地区埋立に伴う調査、白島地区鳥類調査、上五島石油備蓄基地建設に伴う調査
  - その他の業務：矢上大橋有料道路大気質調査、土運船の航行に伴う環境調査、柳川市アメニティ・タウン計画策定、等
- 以上のように、例年以上に多岐にわたる業務内容であった。

### 環境部環境生物課

課長 花岡悠

環境生物課の主な業務は、水質、底質、水生生物に関する調査計画の立案、現地調査、調査報告書の作成にあります。しかし、昭和59年度はこれら主業務の他に、深浅、水準測量、AGP試験、石炭灰による生物試験、魚類の溯上、降下、産卵量調査、魚類死原因の検討、藻場造成事業調査、パンフレット及び展示用パネルの作成業務等が加わり、環境問題が年々複雑多岐にわたっている様相がうかがわれます。これらの複雑な環境問題に対応するには、単に文献による知識のみでは不十分で、ある程度の経験と配慮とが必要です。以上のような状況から、課員一同環境問題の総合コンサルタントを目指し、先生方の御指導をあおぎながら日夜努力を重ねております。

## 環境放射能部

課長代理 松 岡 信 明

従来の原子力関連分野だけの業務が、他分野にも広がりはじめたのが昭和59年度の特色。すなわち、①放射能測定技術を応用したダム湖の堆砂調査、②放射化分析による石炭火力関連調査、③地熱開発に関連した同位体分析のような新規業務があった。

一方従来の原子力関連分野においても、九州電力(株)のご依頼による業務の他に、(財)電力中央研究所や旭化成工業(株)のご依頼による業務が定着化しつつある。また科学技術庁からは6年連続で研究委託を受けた。

この他、一般受付で温泉及び地下水関連の試料持ち込みが多くなりつつある。

## 水俣分析室

室長 高 木 満 郎

当分析室における水俣湾の水質監視業務は熊本県の埋立事業計画により、昭和52年1月事前監視として開始され、昭和60年1月をもって9年目を迎えた。埋立工事は、緑鼻地区を終え、明神地区へと移ってきたが、これまでのところ、慎重な工法と厳重な監視の下で、工事は順調に進んでいる。

そこで、昭和59年11月、過去の監視結果をもとに、監視の内容が一部見なおされ、監視点の数や分析回数を若干減じた形の監視体制となった。これに伴い、当分析室の人員もこれまで7名であったが、5名で対応することになった。工事による二次公害の発生を未然に防ぐべく、また、きれいな水俣湾が、一刻も早く甦ることを切に望みながら監視を続けている。



水俣港公害防止事業の第1工区「みどり埠頭」完成